

助産師が伝えるいのちの出前講座

(公社) 鹿児島県助産師会

いのちを実感する

自分が生まれてきたこと・生きているということ

そしてこれから自分らしく生きていくということ・・・



鹿児島県助産師会では、平成 11 年度から出前講座を始めました。

これまでにたくさんの児童・生徒のみなさんをはじめ、先生方や保護者の皆様へ助産師が伝えるいのちの講座を出前で提供してきました。

令和 4 年度は 1 1 2 校の小・中・高等学校・短大等で出前講座を開催しました。

私たち助産師はいのちに寄り添い、出産や育児のサポーターとしての役割を果たしています。そんな日常の業務の中で自分に自信をもてない子どもたち、現代社会に氾濫しているゆがんだ性情報に戸惑う子どもたち・・・また、子育てに苦悩している親の姿も目にします。共に忘れないでください。

自分の力で生まれてきたこと。

うまれてきてくれてありがとう！と、わが子を抱きしめたあの時のいのちのぬくもり・・・。



胎児疑似体験の様子



実物大のエプロンシアター

助産師が行う性教育は、いのちを実感し、自己肯定感を高めるという視点を織り交ぜ、自らの生と性を考えられるプログラムになっています。

1 講座 60 分

(希望により 45 分での講座も可能です。)

講師料：1 講座 15,000 円 + 消費税

(別途交通費)

小・中学生の感想から・・・

「赤ちゃんの人形はとても重かったです。お母さんは大変だなあって思いました。」 小2 男子

「この授業であらためていのちの大切さを知りました。ぼくはこれまでいろんな人に支えられて生きてきたことを知り、ぼくを支えてくれたいろんな人にありがとうと言いたいです。」 6 年男子

「今、私たちがここに存在していることはとってもすてきで、素晴らしいことだと思いました。これからは、自分はもちろん、他人も大切にみていきたいと思います。」 6 年女子

「いのちは一ばんの宝ものだと思いました。」 小2 女子
「これからも一日一日自分を大切に、自分らしく生きていきたいと思います。」 中3 女子

「性・いのち・生き方など様々なものの見方や考え方が変わった気がします。将来、しっかりした大人になれるようにしたいです。」 中3 男子

「性と聞いていやらしい感じを最初感じていたけど話をきいてそんな感じがなくなりました。」 中2 男子

「赤ちゃんだっこ、体験がよかったです。人形の赤ちゃんでしたが、かわいかったので、思わず本当の赤ちゃんのように抱いちゃいました。意外と重かった。いのちの重さを感じました。」 中2 女子

「いのちの大切さについて深く考えさせられました。いっちょまえに親に文句言ったり、手伝いもしない私・・・自分が生きているのも親や周りの人のおかげだということをもう一度自覚し、感謝しようと思います。」 中2 女子

出前講座の申し込みは

(公社) 鹿児島県助産師会

f a x : 0 9 9 - 2 1 0 - 7 5 6 1